

女性はもちろん、男性も
HPVによるがん発症のリスクがあります！

多くの人が一生涯に一度は感染 ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）ですが、「**HPV感染=がん**」ではありません。HPVは、実はどこにでもあるウイルス。主に性的接触で感染し、性経験がある人の80%以上が、一生に一度は感染するとされています。

HPVは通常、体の免疫力で自然に検出されなくなります。しかしまれに持続感染する場合があります、さらにそのうちの一部の細胞が、がんへと進行していきます。

男性も無関係ではありません

HPVは、**男女問わず感染の可能性があります**。コンドームでも完全に防ぐことはできません。またHPVの持続感染は、様々ながんの発症に関与しています。

HPVが引き起こすがん

女性

子宮頸がん
膣がん
外陰がん

男女共通

中咽頭がん
(のどのがん)
肛門がん

男性

陰茎がん

中咽頭がんは
圧倒的に男性に多い！

2023年9月制作
2024年4月改訂
2025年2月改訂



ティール&ホワイトリボンは、
近年20代~30代の若い女性に増えている
「子宮頸がん」の啓発シンボルです。



詳しくはWebで

<https://www.cancernet.jp/cancer/cervical>

認定NPO法人がんネットワークジャパンで実施している「ティール&ホワイトリボンプロジェクト」は、子宮頸がんについてエビデンスに基づいた情報を発信しています。

CancerNet Japan

制作：認定NPO法人がんネットワークジャパン
〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶ノ水K&Kビル2階
電話：03-5840-6072 mail: info@cancernet.jp

みんなにもっと
知ってほしい

子宮頸がんの 予防のこと

検診・ワクチン

~すべての人に関係がある
あなたも、パートナーも
未来ある子供たちも~



もっと、知ってほしい、女性のこと ①

子宮頸がん啓発キャンペーン
ティール&ホワイトリボン

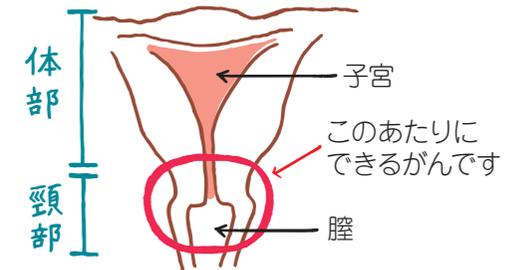
監修：宮城 悦子（横浜市立大学医学部産婦人科学教室 主任教授）

がんは「自分には関係ない」と
思っていませんか？

いま20~30代の女性に増えている 子宮頸がんとは

子宮頸がんとは、子宮の入口（子宮頸部）にできるがんです。若い世代で増加傾向にあり、現在、日本では毎年約1.1万人が子宮頸がんと診断され、**毎年約3,000人が亡くなっています。***

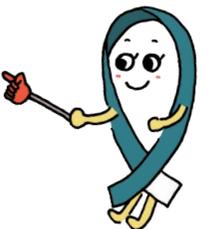
*出典：国立がん研究センターがん情報サービス



子宮頸がんは予防できます

子宮頸がんの発症には、ほとんどの場合、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが関与しています。HPVは、**一度でもセックスの経験があれば、男女問わず、だれでも感染の可能性があります。**

しかしご安心を。子宮頸がんは、適切に行動すれば**予防ができるがん**なのです。予防のためにできることは2つ。**HPVワクチンの接種と、定期的な検診**です。



初めての性交渉を経験する前が最も効果的！
 小学校6年生～高校1年生相当の女子は、
 HPVワクチンを公費で受けることができます。

Q. どこでワクチン接種を受けられますか？

A. お近くの医療機関（婦人科、小児科など）や、住民票のある自治体でご相談ください。接種回数は2～3回。ワクチンの種類や年齢により回数や間隔が異なります。※2回接種は15歳未満の女子で9価ワクチンのみです。

Q. 接種の対象年齢を過ぎてしまいました…。

A. 「キャッチアップ接種」の対象だった平成9年度～平成19年度生まれの女性や、平成20年度生まれの女性は、令和4年度以降に1回以上の接種を令和7年3月31日までにしていれば、残りの接種を無料で受けられます（令和8年3月31日まで）。

Q. セックス(性交渉)の経験後でも効果はありますか？

A. 性交渉の経験後でも、まだ感染していないHPVの予防効果が期待できます。ただし、すでに感染しているウイルスを排除する効果はありません。

Q. 副反応が心配です。

A. 接種部位の痛みや腫れなどは80%以上の人に生じるとされます。また、まれに重いアレルギー症状などが起こることがあります。気になる症状が出た時は、すぐに医師に伝えましょう。



ワクチンにより子宮頸がんにかかるリスクが低下するデータがあります

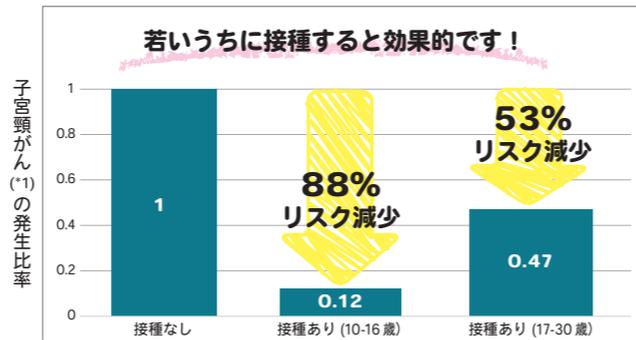
ワクチン

HPVワクチンで感染を予防

ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐことで、**将来の子宮頸がんを予防できると期待されています。**

HPVは200種類以上の型があり、そのうち約15種類が子宮頸がんの原因になります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぎます。現在、日本で受けられるHPVワクチンは「2価」「4価」「9価」の3つです（2023年11月現在）。

* 2価・4価は子宮頸がんの原因となるHPVの感染を50～70%を防ぎ、9価は80～90%を防ぐとされています。
 * 2022年より、国によるHPVワクチンの積極的勧奨が再開されています。



スウェーデンにおけるワクチン接種なしの子宮頸がん発生率を1とした場合、それぞれの年代で接種した場合の子宮頸がんの発生率を示しています。
 (*1) 浸潤性子宮頸がん (*2) 接種ありは1回以上の4価HPVワクチン
 出典：宮城悦子医師の資料を参考に作成

どちらも重要！
 子宮頸がんを
 防ぐためにできる
 2つのこと

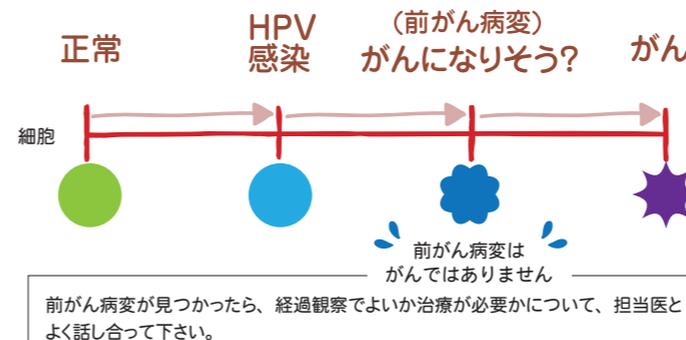
検診

子宮頸がん検診で早期発見

定期的な検診で、**がんになる手前で** 見つけることができます。

子宮頸がん予防にワクチン接種はとても効果的。でも、がんを100%防げるわけではありません。**ワクチン接種の有無に関わらず、定期的に検診を受けること**が子宮頸がん予防の基本です。

しかも検診では、「がんになっていないか」だけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（前がん病変）」も調べることができます。早期に対処できれば、子宮を失わずに治すことも可能です。



ワクチンを打っていても、いなくても
 20歳になったら2年に1回、
 子宮頸がん検診を受けましょう！(*1)

Q. 検診はどこで受けられますか？

A. 医療機関（産婦人科）で受けられます。住民票のある自治体から定期的にクーポン券をもらえることもあります。

Q. 特に症状はありませんが…。

A. 検診は症状がないときに受けるものです。また子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がありません。症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

Q. 検査ではどんなことをしますか？

A. 専用の器具を使い、子宮頸部の細胞を採取します。痛みを感じることはほとんどなく、数分で終わります。気になる場合は女性医師のいる病院を探すのも手です。

Q. 検診のデメリットはありますか？

A. 少し出血することがあります。また、検診の精度は100%ではありません。がんを発見できなかったり、がんがないのにがんの疑いがあると判定が出たりする可能性もあります。しかし、それらの可能性は低く、検診を受けるメリットはデメリットを上回ることが証明されています。

不正出血などの自覚症状がある場合、保険診療として産婦人科を受診することが重要です。

(*1) 30歳以上の女性はHPV感染有無を調べる「HPV検査単独法」の検診も細胞診単独法とともに推奨されています（HPV検査単独法の場合は異常がなければ5年に1回）。詳しくは自治体にお問い合わせください。

